

本校の科研部生物班といえば、やはり“ヒキガエル”だろう。総文祭で文部科学大臣賞を受賞したあの研究だ(Vol.87参照)。皆さんご存知の通り、その研究のフィールドである猿江公園には、数百匹のヒキガエルと、ニホンアカガエルが生息しており、公園管理者や工事関係者の方々と連携してそれらの保全をしようという話が進んでいる。しかし、カエルの観察をしていると、保全対象のカエルを捕食する“鳥”が思っていたよりも多いことが分かってきた。いきもの記では、これまでリュウヘイ先生が幾度となくカエルを話題にしてきたが、鳥とカエルの関係については言及されていなかったもので、書いてみることにした。

ということで今回は、これまで筆者が見てきた数々の「カエル捕食事件」についてお伝えする。

File① 校内で見つかった謎の骨

筆者は3階のテラスで昼食を食べることが多いのだが、11月29日もいつも通りテラスへ足を運んでいた。食べながらふと足元を見ると、何やら白い塊が落ちている。この形…もしや骨では…？ よく観察すると、骨の大きさや形状、表面に付いていた皮の模様から、ヒキガエルのものだと分かった。なぜこんなところにカエルの骨があるんだ…？

File② なぜこの鳥が？！衝撃の捕食シーン！！

12月5日、この日は猿江公園の下池周りの草地で、カルガモが集団で餌を獲っているところをじっくりと観察していた。カルガモは通常、植物の種子などを食べる。しかし、この時見たものは明らかに植物などではなく、「カエル」だった。すぐに気づき、慌ててシャッターを切る。確認してみると、それはニホンアカガエルだった。在来種だ。ウシガエルのような外来種を食べてくれるのなら良いが、保護対象の在来種（しかも、東京都区部で絶滅危惧IB類）を、普段カエルを食べるはずのないカルガモが食べたのである。これは由々しき事態である。

File③ 雑食代表カラス、連続犯行か。

事件は続けて起きた。今回の事件現場は、またも下池である。12月21日、この日も学校帰りに猿江公園に立ち寄ったのだが、何やら地面を啄む2羽のハシボソガラスが。すかさず双眼鏡を覗くと、なんとヒキガエルを啜っているではないか！ 2羽でヒキガエルの奪い合いをしていたのである。1羽が奪い取り、近くの木に移動してしばらく食べた後、科学技術高校の方へと飛んでいった。ここで一つの仮説が生まれた。もしや、File①の時に見つけた骨も、今回のようにカラスに運ばれてきたものではないか？ 仮にそうだとしたら、本校のテラスがカラスたちの採餌場になっているのかもしれない。

File④ 繁殖期に現れた“蒼い影”

ヒキガエルの繁殖期に突入した2月15日、カエル班と共に調査へ出かけた。上池に次から次へと集まってくるヒキガエルを1個体ごとに記録していった。2、3時間程で調査を一通り終え、帰り支度を始めた頃、突然“蒼い影”が上池に降り立った。“アオサギ”だ。大量に集まったカエルたちを狙ってやってきたのだろう。メスを探すのに夢中なヒキガエルたちは気付かず、抵抗する間もなく捕まってしまう。こんなご馳走は滅多にない。カエル好きなアオサギにとっては最高の時間だっただろう。

ヒキガエルに関しては猿江公園以外でも確認していて、小金井公園ではカラスに、秋川ではトビに捕食されているのを目撃した(スペースの都合上写真は載せられないが…)。猛禽類まで食べるとなると、これまで筆者が目撃した鳥以外にも捕食する可能性があるのではないかな。気になるところである。

別の生き物同士の関わりを見ることは、生態系を理解することにも繋がるし、なんといっても面白い。だから、鳥とカエルどちらかだけでなく、是非とも両者の関係にも着目して観察してみたい。

鳥界では意外とカエルが人気？ カエル食の鳥たち



①本校3階のテラスに落ちていたヒキガエルの残骸。左図は背骨であり、右図の骨には皮が付いている。(2023.11.29)



③ヒキガエルを捕食するカラス(2023.12.21, 卒業生のヒカル先輩が撮影したもの)



②ニホンアカガエルを捕らえたカルガモ(2023.12.5)



④上池に集まったヒキガエルを捕食するアオサギ(2024.2.15, ヒカル先輩撮影)